

<その他の代表的宗教>

(1) シュメール

すべての文明の根源。ピラミッドの原型もシュメールで、ジグラットと呼ばれる。シュメールの首都は、現在のイラクにあるウルであった。

神々のことをネフィリムもしくはアヌンナキと言う。大神がアヌ（アン）で、その 2 人の息子が地の神エンリルと水の神エンキである。直系の末裔はメソポタミア、エジプトである。

シュメールの粘土板から様々なことが解った。洪水伝説の起源はここにあること、神秘的な数字 7 や 12 などのいわれもここにあること、シュメールの神々が他の文明の神々の雛形となっていること。そして、何よりも驚きなのが、シュメールの神々は、地球に鉱物資源を採掘しに来た、太陽系 12 番目の惑星「ニビル」の住人だ、ということ。ニビルは太陽系とシリウスの間を 3600 年周期で公転している。これは、世界でもごく僅かしかないシュメール研究家、パレスチナ生まれのユダヤ人であるゼカリア・シッチン氏が粘土板を読んで解読した結果である。興味のある方は、参考にされたい。（なお、米国はイラク侵攻により粘土板を盗んだ。）

・人類を創成した宇宙人、神々との遭遇 上 下（徳間書店）

天皇を諡号（しごう）で言うとスメラミコト。シュメールとは英語読みなので、本来はスメル。スメルのみコト＝スメラ・ミコト？シュメールの粘土板から発見された楽譜を演奏すると、熊野大社の雅楽にそっくりだとか。シュメール人は、蒙古斑があったとか。果たして、シュメールと日本の関係は？

(2) 古代エジプト、ペルシャ、ギリシャ、ローマ

いずれも多神教で、原型はシュメールにある。

- ・エジプト：オシリス、イシス、ホルス、ラー、アヌビスなど。ギザの三大ピラミッドは、「生命の樹」の三柱を表す。クフ王の墓とされるピラミッドが「慈悲の柱」である。
- ・ペルシャ：拝火（ゾロアスター）教。ドイツ語ではツァラトウストラ。太陽神ミスラ（ミトラス）。
- ・ギリシャ：ゼウス、アテナ、ポセイドン、アポロンなど。
- ・ローマ：ユピテル、ミネルヴァ、ネプトゥヌス、アポロなど。ギリシャ神話と名前が異なるだけ。他に、エジプトのイシス神やペルシャのミトラス神なども。

(3) 北欧など

主神はオーディーンで、世界樹ユグドラシルが世界を支えている。北欧神話の世界観は重層的である。全体像として、宇宙は天上、地上、地下の 3 つの平面から成り立っており、この平面を巨大なトネリコである世界樹ユグドラシル

が貫いている。3つの平面は更に9つの世界に分かれている。それらは、アースガルズ（アース神族の世界）、ヴァナヘイム（ヴァン神族の世界）、アールヴヘイム（光の精の世界）、ミズガルズ（人間の世界）、ヨートゥンヘイム（巨人族の世界）、ムスペルヘイム（火の巨人の世界）、ニヴルヘイム（霧の世界）、スヴァルトアールヴヘイム（小人の世界）、ヘル（死者の世界）である。

北欧神話には、ラグナロクという終末思想がある。恐ろしい冬が3年間続いた後、ヴィグリーズの平原に於いて、主神オーディーンに率いられた神々の一族、神々と対立するロキと巨人族、冥界から来た死者たち、恐るべき狼フェンリルや海の怪物ヨルムンガンドといった邪悪な者たちの間に激しい戦争が勃発し、共に滅んでしまうのがラグナロクである。つまり、神々でさえも戦いによって滅びる存在、というのが他の神話には見られない、北欧神話の大きな特徴である。

ちなみに聖書では、終末にハルマゲドン＝メギドの丘で世界最終戦争が勃発し、神に選ばれし民が勝利し、至福の千年王国が訪れることになっている。

なお、作曲家ワーグナーは北欧神話とドイツの「ニーベルングの歌」に影響を受け、「ニーベルングの指環」を創作した。これは、まったくワーグナーの創作である。

(4) イスラム教

開祖はムハンマド（モハメッド）、6～7世紀発祥で、他の宗教と比較して新しい。彼はメッカ生まれで字の読めない商人であったが、突然、神の啓示を受けた。絶対神はアッラー。唯一にして絶対の存在で、いかなる分身も持たない。アッラーに仕える清浄な霊体である天使を重要視する。ムハンマドはメッカで迫害され、メディナに逃れた。昇天したのがエルサレムで、岩のドームが建立されている場所である。

重要な経典はモーゼ五書、詩篇、イエスへの福音書、そしてムハンマドによって示されたコーランである。最終的なコーランこそが、真実の神託であるとみなし、それを授けたムハンマドこそが最高の預言者であると信ずる。

預言者の仲でも、アダム、ノア、イブラーヒム（アブラハム）、ムーサー（モーゼ）、イーサー（イエス）、ムハンマドの6人を傑出した預言者と見なす。

(5) ヒンズー教

厳しい身分制度カーストの元となったバラモン教（聖典はヴェーダ）が起源だが、それがバビロニアの影響などを受けてヒンズー教となった。（ここではヒンドゥーではなく、ヒンズーとする。）他の宗教とは善悪の神が逆転している場合もある。従って、神々もいろいろなものが混ざり合っている。ヴェーダ以前の土着神、ヴェーダの神、シュメールの神など。

ヒンズー教の教えとは、“永遠に存在する個人の本体＝我＝アートマン”と“宇宙の根本原理＝梵＝ブラフマン”の合一を目指すことにある。そのために、“シャクティ＝宇宙的根元力＝クンダリーニ”を上昇させ、チャクラを開き、神との合一を目指す。これが、ヨーガである。クンダリーニのエネルギーはこの宇

宙に於ける生命エネルギーそのものであり、蛇として喩えられる。それ故、特に東洋では蛇が神として崇められる。ヒンズー教でも、元々の土着神であるナーガ、ナーギという下半身が蛇の夫婦神が世界を創造したと見なしている。

中でも、タントラヨーガでは、会陰部にあるクンダリーニを背骨に沿って頭頂まで上昇させることを“神秘的結婚”と言い、更に、体正面の正中を通して丹田、会陰部まで周回させることを大周天と言う。7つのチャクラすべてを活性化させることがヨーガの極意である。チャクラがすべて活性化されると超人となり、不老不死になるとも言われている。

このように、ヒンズー教ではクンダリーニが極めて重要視されているので、他の宗教が性的な部分を隠遁しているのに対し、ヒンズー教は性器崇拝である。ヨニ（女性器）にリンガ（男性器）がそそり立っているものを御神体とする。また、他の教典（スートラ）として有名なものに、セックス指南書「カーマ・スートラ」がある。

ヒンズー教とチベット密教では、タントラ、ヤントラ、マントラ、曼陀羅という言葉がよく出てくる。タントラでは、すべてのものは特定の周波数を有する振動音と見なす。これは、量子力学が登場した以降の現代物理学の考えと一致する！それを視覚的に表したものがヤントラ＝曼陀羅であり、宇宙あるいは神を象徴する。曼陀羅は三神三界を表した「生命の樹」の象徴である。そして、聴覚的なものがマントラ＝真言である。ヤントラ、マントラは永遠なるもの＝宇宙創造の意識と一体となる秘術である。また、ヒンズー教では宇宙の年齢を311兆400億年としている。

純粋なヒンズー教の神は、創造神のブラフマー、万物に化身して世界を救う神ヴィシュヌ、破壊と創造の神シヴァの三神である。ここでも、三神である。シヴァのシンボルは三叉戟（さんさげき）であり、これもまた、「生命の樹」の三柱を表す。なお、ヒンズー教では釈迦は誤った道を説く魔神（ヴィシュヌの化身）である。

(6) 仏教

シャカ族の王、ゴータマ・シッダールタ＝釈迦＝仏陀が開祖。王子だったが、生活に嫌気がさし、世間を放浪。バラモン教徒などを弟子として、解脱のために厳しい修行をしていた。家族を捨て、先祖を捨て、世間を捨てる。しかし、ある時、こんな厳しい修行をする必要があるのか、と疑問が湧き始め、通りがかった少女スジャータの差し出すミルク粥を食べてしまった。（某メーカーのコーヒーフレッシュの名称はこれに因む。）それにより、釈迦は世を捨ててはいけない、家庭を捨ててはいけない、と悟った。そのようなものによって、今の自分が在るからである。そのため、修行を重んじるバラモンの弟子たちは去って行った。しかし、中庸に戻り、瞑想を行うことにより、悟りの境地を得ることができた。“涅槃”とは、あの世に存在するものではなく、“悟りを開いた境地”のことを言う。

“悟りの境地”とは、「生命の樹」の真理を悟ることである。釈迦が悟りを開

いたのは菩提樹の下であるが、これも「生命の樹」を象徴している。よって、“南無妙法蓮華經”とか“南無阿弥陀仏”などと唱えているだけで救われる、というのはナンセンスである。仏教はすでに釈迦の弟子からして、教義を変更していったものもある。また中国では、写本したら原本を破棄する習慣があった。そして、各宗派の都合の良いように解釈されていた経緯があるため、現在の日本では、どの宗派もまともな釈迦の教えなどは存在しない。大乘だの、小乗だの、ということはどうでも良いことなのである。

ちなみに、お経というのは、サンスクリット語で書かれた教えやマントラを音写しただけのものである。漢字の意味はほとんど無く、それで解釈してはならない。マントラを日本語で言うところ「真言」のこと。般若心經の意味することを、サンスクリット語の意味で本当に理解している僧侶はどれだけいるのか？

また、仏教徒は菩薩に救いを求めたりするが、菩薩とは、サンスクリット語でボーディサットヴァのことであり、これを省略して音写したものである。ボーディサットヴァとは、悟りの道を求めている者のこと。つまり、生きている人間のことであり、あの世に居て現世の人間を救ってくれるわけではない。そもそも、釈迦はあの世の高貴な存在が人間を救うなどとは、教えていないのである。

それに、日本の仏教は独特である。例えば、死んだ人に戒名を付けるが、半島、大陸、インドの仏教にそのような風習は無い。また、お盆の時期に行われる送り火などは仏教の風習ではなく、シュメールで神々を迎えるための篝火が原型である。

更に、元々の仏教はすべてを捨てて解脱することが目的だったから、先祖を敬う風習も無かった。中国へ渡り、儒教などの影響から、先祖崇拝の風習を取り入れたのである。

なお、よく聞くマイトレーヤ（弥勒菩薩）とは、釈迦の女弟子である。これが、古代ペルシャの太陽神ミトラスなどと一緒にされ、後に、時が満ちれば人類を救済に来る菩薩とされてしまった。

(7) チベット密教

タントラとは密教、すなわち“秘なる教え”のことであり、チベット密教はヒンズー教と仏教を融合したものである。基本はヒンズー教の曼陀羅、マントラ、ヨーガであり、仏陀を最高のものとする。

チベット密教では、体が神聖なる殿堂であると見なす。クンダリーニのことを「ルン」と呼び、タントラヨーガにより仏陀となることを極意とする。

クンダリーニを上げるために、秘密集会（しゅうえ）を利用する。これは、守護尊が裸の妃を抱いている絵である。これを使って活性化し、精液を漏らさず、そのエネルギー（ルン）を頭頂まで上げる。（ヨーガと同じ。）このエネルギーは、やはり蛇に喩えられる。仏陀を守護するナーガ、などとして、蛇は神聖なものである。

中には、日本には伝わらなかった後期密教である無情瑜伽（ゆが）タントラ

がある。瑜伽とはヨーガのことである。ある宗派では、五甘露・五灯明の飲食を行い、秘密集会タントラ図を現実のものとして実践する。五甘露とは、糞便、尿、精液、経血、大肉（人肉）のことであり、五灯明とは、大肉、象肉、馬肉、犬肉、牛肉のことである。これらを飲食し、秘密集会タントラ図と同じ配置の女性と交わることにより、即身成仏する。つまり、これは完全な悪魔崇拝、黒ミサなのである。他の宗派では、実際にそんなことはせず、「想念」の中で行うことだ、としているが…。

チベット密教の神々は、寺などでよく見かける菩薩などに見なして良い。ほとんどの神の名前には、“オーム”という接頭語が付いている。カルト集団の“オーム”と同じである。意味は“全知全能の神”である。この言葉の周波数が地球の固有周波数 7.8Hz（シューマン共鳴）と共振するため、とも言われている。オームとは、アルファベットでは AUM と書く。これを漢字にしたら「阿吽」である。阿は始まりで陽、吽は終わりで陰を表す。また、中東では「アーメン」となり、更なる語源はシュメールの大神アヌ（アン）である。

なお、チベット密教にはシャンバラという理想郷があるとする。そこには、地球を治める王サナート・クマラが居ると信じる。日本でも、鞍馬寺に祀られている。表では「光明神殿」に祀られているが、本体は裏の奥の院で魔王尊として、神ではなく、魔王として祀られている。魔王とは、西洋ではルシファーのこと。鞍馬の伝説では、650 万年前に、地球を救うために金星からやって来た、とある。金星と光明。ルシファーは元々、光の天使＝光明のルシフェルであった。墮天使ルシファーは明けの明星＝金星であり、地の底に落とされた。よって、サナート・クマラとは、魔王ルシファーのことである。また、以前に鞍馬寺に行った時、次のような資料が寺の博物館（霊宝殿）にあった。5 月の満月祭の時に詠われる一節である。

“その不思議なる御手には 他界の太陽シリアスの くだしたまえる御力の
光の棒ぞ燃えさかる
崇高偉大の魔王尊 地軸を傾け磁極をば 置き換え移し気候をば 一変したもう魔王尊
移る磁極は大地震 大洪水の地変をば 巻き起こせども御前に ひれ伏す者を助けませ”

シリウスを別の太陽と見なすのは、明らかに近世神智学の影響である。これは、霊や宇宙人とのチャネリング情報などをベースとするオカルト神秘主義である。神智学では、シリウスの意識が地震を引き起こすと言われているし、ルシファーは 6 次元に相当するシリウスの闇の意識などとも言われている。よって、ここからもルシファーであることが明らかである。

そして、先ほどの忌まわしい無情瑜伽タントラの大魔王こそがサナート・クマラなのである。よって、いずれの面から、サナート・クマラとは大魔王ルシファーのことであると断言できる。地球を救済するなんて、真っ赤なウソで

ある。

最近、鞍馬寺ではサナート・クマラについての記述が無くなったとか。実は、鞍馬寺のサナート・クマラの歴史は浅く、先代の管長が神智学に入れ込んだのがきっかけである。(名前も鞍馬とクマラで似ているし。)それが元々の天台宗ではなく、鞍馬弘教という独自の宗教団体になっている理由でもある。しかし、最近サナート・クマラについて質問する人が増えたいが、その真実について知らないため、あるいは知っているため、答えられないのだろう。(こんな意味を知っていたら、尚更、答えることなどできない。)そのため、サナート・クマラについての記述が無くなったのである。

しかし、鞍馬に元から祀られている鞍馬天狗や魔王尊までもが神智学からの輸入というわけではない。

鞍馬寺の本尊は毘沙門天である。実は、この仏こそ本来の鞍馬天狗であり、魔王尊である。仏教における天部は、元々ヒンズー教の神々である。特に、毘沙門天はヒンズー教のルーツ、バラモン教にまで遡る古い神である。インドに於ける名前はクベラ。(音写が金比羅。音便化して訛るとクマラに似ている。)クベラはヒマラヤに住む財宝神。毘沙門天が北方の守護神として、平安京の北にある鞍馬寺で祀られた理由や商売繁盛の七福神の 1 人に選ばれたのは、ここに理由がある。今でも、天台宗の密教呪術に於いて、毘沙門天は強力なパワーを持つと信じられている。(だから魔王尊。鞍馬は元々、天台密教である。)

毘沙門天は、サンスクリット語でヴァイシュラヴァナに漢字を当てはめたもの。意味は多くの耳をもって聞く者、いわゆる四天王の 1 人、多聞天である。そして、多聞天は古代アリアの光明神ミトラである。ミトラはインドと同じくアリア人国家のペルシャの宗教であるゾロアスター教でミスラ(ミトラス)と呼ばれる。ミスラには多くの目や耳があり、生物の生長や国家の守護をすることから、この属性が広目天、多聞天、持国天、増長天という 4 人の天部に分けられたのである。

一方、インドにおけるミトラは、サンスクリット語でマイトレーヤと呼ばれる。“友情”という意味であるが、これが仏教に取り込まれると、弥勒菩薩になってしまう。キリスト教の影響も受け、時が満ちれば人類を救済に来る菩薩とされてしまった。

つまり、鞍馬天狗や魔王尊とも呼ばれる毘沙門天はインドに於いてはクベラ、ミトラ呼ばれ、一方でマイトレーヤ=弥勒菩薩、引いてはイエス・キリストにまで繋がる仏、もしくは神なのである。

(8) 道教

中国で幅をきかせる宗教の 1 つ。儒教は孔子の教えであるが、道教とは関係無い。

道教と言えば、風水や仙人など、呪術的なものが思い浮かぶが、その通りである。風水では、川の流れ、地の流れなどを見る。これはすなわち、地球の「気」の流れを見ている。地球も生命体であるから、当然、人間の経絡(けいらく)・経穴(けいけつ)に相当する電磁場の流れがある。その流れ、吹き出し口を見

極め、流れを妨げてはいけない。いわゆる鬼門・裏鬼門とは、裏鬼門から鬼門に向かって流れがあるので、それを妨げてはならない、ということである。

他には、「木火土金水（もっかどごんすい）」の五行説がある。この 5 つがすべての基本と見なす。諸葛孔明は奇問遁甲を自在に操ったので、呪術師と見なされた。

日本の陰陽道（おんみょうどう）の元は道教であり、「天皇」という言葉も「天皇（てんこう）、人皇（じんこう）、地皇（ちこう）」から採ったものである。道教の奥義は仙人になることである。仙人術の奥義とは、気＝クンダリーニを上昇・周回させて不老不死を得ることにあり、ヒンズー教、チベット密教とまったく同じである。達磨大師が考案した少林寺拳法も、その 1 つである。（達磨もインドで修行した。なお、ヒンズー教のカーマ・スートラに相当するものが、「房中術」である。）

諸葛孔明は風水だけでなく、陰陽道にも優れていた。陰陽道とは、この世の森羅万象は、すべて陰と陽から成る、という考えである。人形（ひとがた）や饅頭も、陰陽道由来のものである。陰陽道は呪術でもある。古来、洪水などの天災があると、神に人身供儀して祈った。その人の代わりが人形であり、饅頭である。

道教での天地創造は、上半身が人間、下半身が蛇の体である二柱の神々、伏羲（フッキ）と女媧（ジョカ）が大木の周りをそれぞれ反対方向に回って交わり、行われたという。これは、ヒンズー教のナーガ、ナーギと同じである。伏羲は直角定規、女媧は手にコンパスを持っていた。そう言えば、ユダヤ教のヤハウエも、コンパスと直角定規で天地創造する絵が描かれている。また、イエスは大工だったので、コンパスと直角定規は手慣れたものだった。聖徳太子は大工の神様として崇められている。フリーメーソンの象徴はコンパスと直角定規である。ヤハウエ＝イエスこそ、純粋フリーメーソンの元祖である。

日本の神話では、イザナミとイザナギが天御柱（あめのみはしら）の周りをそれぞれ反対方向に回って交わり、天地創造した。雛型はインドのナーガとナーギ、中国の伏羲と女媧である。アダムとイブの話では、アダムはイシュ、イブはイシャーだった。これが転じて“イザ”となる。また、ナーガとナーギが転じて“ナギ”と“ナミ”であり、合わせて“イザナギ”と“イザナミ”である。そして、イザナギとイザナミがコンパスと直角定規を持っているわけではないが、日本にも、コンパスと直角定規で描くものがある。「日の丸」である。

「日本」とは？「日の丸」とは？＜日本の真相＞を、乞う、ご期待！

参考著書：

・ゼカリア・シッチン著、「人類を創成した宇宙人」、「神々との遭遇 上 下」、徳間書店。

- ・造事務所編著、「「天使」と「悪魔」がよくわかる本」、PHP 文庫。
- ・造事務所編著、「「世界の神々」がよくわかる本」、PHP 文庫。
- ・学研 NSM ブックスエソテリカ宗教書シリーズ、「古代秘教の本」
- ・学研 NSM ブックスエソテリカ宗教書シリーズ、「神秘学の本」
- ・学研 NSM ブックスエソテリカ宗教書シリーズ、「イスラム教の本」
- ・学研 NSM ブックスエソテリカ宗教書シリーズ、「ヒンドゥー教の本」
- ・学研 NSM ブックスエソテリカ宗教書シリーズ、「チベット密教の本」
- ・学研 NSM ブックスエソテリカ宗教書シリーズ、「道教の本」
- ・学研ムーブックス、ネオ・パラダイム ASKA シリーズ。

初版：2006 年 8 月

改定 3 版：2009 年 4 月

改定 4 版：2012 年 12 月